

1 全体計画

学校の教育目標

ともに生きる子 人と社会と自然と

人権尊重の精神を基に、明るく健康で、知性と感性に富んだ児童を育成するために目標を設定し、その実現を図る。

令和2年度学校経営方針

- ・よいところをもっとよく（個性の伸長）
- ・豊かなふれあい（教職員と児童、児童相互）
- ・確かな児童理解（多様・多面的な理解）
- ・きめ細やかな指導（個に応じた見届ける指導）

本校の捉える「確かな学力」

- ・基礎的、基本的な力（読み、書き、計算）
- ・自ら課題を解決する力
- ・深く考える力（思考力・判断力・表現力）
- ・主体的に学び、対話をする力
- ・文章に即して読み取る力
- ・発達段階に応じた力

令和2年度の指導の重点

- <各教科>
- 社会：大切な用語を理解し、社会的事象に対して多面的にとらえられるようにする。
 - 算数：少人数指導を活かして、基礎的・基本的な力を付ける。
 - 国語：言語活動を充実させ、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育てる。
 - 理科：実験結果の考察を行う際に、理科の見方、考え方を働かせ、問題解決の力を伸ばすようにする。
 - 図画工作：楽しみながら基礎基本を身に付け、人・もの・こと・場と関わりながら表現したいことを見つけて表す活動や、鑑賞ができるようにする。
 - 家庭：実践的・体験的な活動を多く取り入れ、家庭生活を大切にする心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。
 - 生活：具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分自身や自分の生活について考え、表現できるようにする。
 - 体育：各運動領域の特性を味わわせ、運動の楽しさを感じさせられるよう教材を選定し意図的・効果的に運動に取り組むことができるように授業をつくる。
 - <音楽> 表現したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付ける。
 - <道徳> 道徳教育を通して、自分に自信をもち、相手のことを考え、真心をもって礼儀正しく行動しようとする心の育成を図る。
 - <特別活動> 集団の一員としての自覚をもたせ、よりよい人間関係の形成を図り、自治能力や主権者として積極的に社会参画する力を育てる。
 - <総合的な学習の時間> 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通し、学習の過程で主体的、創造的、協働的に取り組む力を育てるとともに、よりよく問題を解決する資質や能力、学び方や考え方を身に付けさせる。
 - <生活指導>
 - ・元気な挨拶や時と場に応じた言葉遣いの徹底を通して、人とかかわる力やコミュニケーション能力の育成を図る。
 - ・児童一人ひとりの理解に努め、家庭との連携を図りながら、学校・学年・学級等の集団の中に自らの「居場所」があることを実感できるように取り組む。
 - ・学校いじめ防止対策委員会及びいじめ対応担当を設置し、いじめと判断される案件や疑われる案件については、迅速かつ組織的・継続的に取り組み、重大事態への移行を未然に防ぐようにする。
 - <進路指導> 全教育活動を通してキャリア教育を行い、将来への夢や希望を育み、困難を乗り越える忍耐力や願いを実現しようとする強い意志を身に付けさせる。

授業改善の視点

<p>指導内容・指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1プロブレム解消のため、巡回指導員と連携したスタートカリキュラムを実施する。 ・特別支援教育推進のため、月1回校内委員会を開き、個に応じた指導を充実させる。 ・東京ベシックドリルを活用した繰り返し学習を行う。 	<p>教育課程編成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領実施と新型コロナウイルス感染症の感染予防対策に応じた行事内容や週時程を見直す。 ・低学年の体力向上のため、元気アップトレーニングを体育の年間計画に位置付ける。 ・塔山タイムを活用した基礎・基本の徹底。 ・ゲストティーチャーを招き、キャリア教育を実施する。 	<p>評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく評価計画の作成。 ・学年で統一した評価計画と評価方法。 ・新学習指導要領にそった学習内容を確認し、評価に反映させる。 ・新学習指導要領にそった年間指導計画や評価基準の見直しと作成。 	<p>校内研究・研修の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の物語文における指導法の工夫と授業実践。 ・全教職員による道徳の評価方法の共通理解。 ・保幼小中連携の取組。 ・全学年におけるオリンピック、パラリンピック教育の取組 	<p>家庭・地域との連携の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回個人面談と年2回保護者会の実施。 ・校内掲示による道徳教育実践の発信。 ・保護者や地域ボランティアとの連携（ゲストティーチャー金管バンド）。 ・ホームページの定期的な更新。
--	--	---	--	---

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

算数の少人数指導の授業（2・3・4年生）に入ることで、個に応じたきめ細かい指導を行う。また、放課後学習教室として、算数少人数担当教員と補充的な学習を実施し、基礎基本の徹底を図る。

A L Tの活用の工夫

学級担任とともに教材研究や指導法の研究を行うことによって、児童が外国の言語や文化について体験的理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ることができるようにする。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

国語科の重点

- ・新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、少人数で対面して話し合うこと、対話する活動は控える。「1対多」のスピーチをしたり、児童が作成した原稿や図、思考ツールを掲示してそれを見たりすることによって、他者と情報を共有する。
- ・言語活動を充実させ、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育てる。特に、日常生活における人との関わりの中で物事を順序立てて説明する力を養う。
- ・書く力（特に自分の意見と理由を区別して書く力）を付ける。
- ・言葉がもつよさを感じさせ思いや考えを伝え合おうとする態度を養うために、語彙指導を充実させる。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名は概ね定着しているが、文を書く際の句読点の付け方、特殊音節の読み方、書き方の定着が不十分である。 ・語彙力に差があり、物事を順序立てて分かりやすく説明することに課題がある。 ・意欲的に発言する児童が多いが、教師や友達の話を適切に聞き取ることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文を書く経験の積み重ねが不足しており、言葉の特徴やきまりに関する事項の指導が十分でない。 ・本を読む活動が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きらりルームと連携した指導を行う。文字の読み・書きの積み重ね、音読の継続指導を続ける。定期的な日記指導や作文指導、視写を行い、書く経験を積んでいく。 ・気持ちを表す言葉や、修飾語などの学習したことばを掲示する「ことばのたからばこ」を作成し、語彙力の向上を図る。 ・読み聞かせを行う ・スピーチを多く取り入れ、話し方や聞き方を身に付けさせる。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい漢字の学習には興味を持って取り組むが履修した漢字に自信がもてない児童がいる。 ・集中して読書することができる。 ・文章を書くことにまだ慣れていない児童が多い。（語彙が少ない。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字は読めるが自信をもって書けない児童の把握、書く学習は毎日続けているものの定着が弱い児童へのサポート方法の工夫。 ・文章をじっくり読んだり、書いたりすることに不慣れである。 ・語彙力の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く作業が惰性となっていないか確認する。ポイントを明確に指導し小テスト等での振り返りも増やす。履修の漢字を積極的に使用した短文を書く機会を増やし定着を図る。 ・同音異義語など、言葉集めを行い、年間通して廊下に掲示する。 ・言葉についての本の読み聞かせをして、興味・関心を高める。 ・日記を宿題に出し、相手意識をもった文章の書き方に慣れるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きの定着や語句の習得状況に差がある。 ・身近な出来事や自分の気持ちを文章で正確に表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の習得状況に応じた漢字の指導をする必要がある。 ・多様な語句を知り活用する活動が不足している。 ・書いて終わりにせず、自分が書いたものを読み返したり、他者が書いた文章からより効果的な書き方を知ったりする機会を作る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指書きを徹底し、範囲を細かく区切った小テストを実施し、習得していない漢字は繰り返し学習させる。 ・「言葉のたから箱」や国語辞典を活用して多様な語句に触れ合わせる。 ・日記を中心に書く活動を充実させる。 ・文章を書いた後は必ず読み返させ、足りないところを補ったり間違いを直したりする指導に取り組む。 ・友達と書いたものを交流したり、効果的な書き方を取り上げて紹介したりする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の内容において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を具体的に想像するといった精査・解釈に課題がある。 ・日常の中で使いこなせる語彙の量が不足しており、同じような言い回しばかりになってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通り一遍の感想で終わってしまい、初発の感想から学習後の最後の感想までに学びの軌跡が見とれない児童がいる。 ・漢字や言語の定着に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・量は質に転化することを意識し、書く時間を確保するとともに、主題を捉えさせた上で細部を検討する授業を組み立てていく。 ・毎週書かせている日記の中からよい表現を紹介する。また、教師による読み聞かせを継続して行っていく。

5年	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図を考えながら聞く力、適切な言葉で話す力に課題が見られる。 言語についての知識・理解・技能については、指示語の内容についての理解に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモをとる力の育成。自分の考えがわかるように、適切な言葉づかいで話す力の育成。 指示語の内容を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く視点を明確にしたり、話型を提示したりする対話的な活動を授業の中で取り入れる。 説明的な文章を読み取る学習では、段落ごとに要点を捉え、文の構成に目を向けさせるようにする。 文学的文章を読み取る学習では、指示語の内容を捉えることで読みを深めていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 話し手の意図を考えながら聞く力、適切な言葉で話す力に課題が見られる。 枠が決まっている文章を書く力は付いてきたが、文章の構成を苦手とする児童は多い。 語彙力の不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 話の要点を落とさず聞く力の育成を図りたいが、対面しての対話的な活動ができない。 スモールステップで文章を書く力を育成する。 様々な語彙に触れる機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 「1対多」のスピーチ活動後に、それを相互評価する活動を取り入れることを通して、聞く力を育成する。 進み具合のみえる化やワークシートの活用の中で、スモールステップで文章を構成する力の育成を図る。 日常生活で使用できる語彙の掲示や漢字学習での言葉の意味調べの中で語彙力向上を図る。

(2) 社会科

社会科の重点

- ・コロナウイルス流行期において、協働的に課題を追究する活動を行うことは難しい。そこで、今年度は社会的な見方・考え方を働かせ、個人で課題を追究したり解決したりする活動を行っている。そのために
 - ①地図帳、年表、写真資料やグラフなどを活用し、位置や空間的な広がり、始まりの時期やその経過、事象や人物の相互のつながりなどに着目して捉える活動をする。
 - ②事象同士を比較、分類、総合するなどして身近な人々の生活と関連付ける。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を正しく読み取ることが苦手な児童がいる。 ・区の学習において、資料と実際の場所を結び付けて考えることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取ったり、読み取ったことを全体で共有・検討したりする活動が不足している。 ・感染症予防の対応のため、実際の場所に行き触れる機会が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一単位時間の中に資料を活用する場を多く設定する。 ・読み取ったことを個人→全体で共有する場を増やす。 ・写真や動画等の資料を充実させる。 ・児童の身近な地域についての知識や経験を共有する機会を充実させる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことに関心をもって調べることができる児童が多いが、自分たちで課題を設定する力が付いていない。 ・分かったことをまとめたり、自分の考えを表現したりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を引き付ける導入教材のさらなる工夫が必要。 ・自分の生活にかかわりがあることを実感させるための学習活動の設定が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・例年行っていた水道キャラバン、社会科見学等の体験的な活動ができないことから、動画や手紙によるインタビューなどを通して少しでも実感的な理解につなげる。 ・自分の考えを表現する時間を十分に確保し、個別指導を充実させる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習等への積極性に個人差がある。 ・基礎的資料から必要な情報を取捨選択し、自分の意見や理由を述べてまとめることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いが生まれる導入教材を設定する。 ・地図帳や地球儀を多用し、資料と社会的な事象を結びつけるようにする。 ・統計などの基礎的資料から適切な情報を選択させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な教材から出た児童の疑問から学習問題を設定し授業を行う。問題解決的な学習を行う。 ・授業ごとに該当する場所を地図帳で調べる。 ・調べる視点を明確にする。また、友達の考えを聞いてまとめ方を見合う時間を作る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・人物や事象との関連、用語の意味がつかめず苦手意識をもっている児童がいる。 ・歴史的な事象に対し、自分の意見や理由を明確にして述べるのが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活と切り離して考えてしまうことが多い。 ・協働的な学習を進めることは難しいため、一人で考えることには限界がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々の生活と関連付け、事象や人物について考えさせる。 ・自力解決、成果の統合と吟味の時間をとり、一人一人が自分の考えを深められるようにする。 ・デジタル教材を効果的に用いる。

(3) 算数科

算数科の重点

- ・新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、児童同士の学び合いを減らし、代わりに個人の考える時間を十分にとりながら今年度も少人数指導を実施する。少人数指導を活かして、基礎的、基本的な力を付ける。
- ・基礎的、基本的な力を身に付けさせるために
 - ①単元前には各学年でレディネステストを実施し、結果を基に児童に合った環境や方法で授業を行う。
 - ②授業展開では、児童の発言を活かして板書にまとめ、思考力を養っていく。
 - ③繰り返し問題を解くことで基礎基本の確実な定着を図る。
 - ④具体物を用いた学習や言語活動を意識した学習等を取り入れる。
 - ⑤新学習指導要領に即し、量感を育てる体験的な学習を取り入れる。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・数の数え方・10までの数の順序は理解している。 ・計算には意欲的で自主的に自粛期間中に予習済みの児童が多い。計算問題（10までの足し引き）はできるが、文章題を読み、足すのか引くのかを理解して立式できる児童は7割ぐらいである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着、つまずきの把握。学習の習熟。 ・文章の意味することをイメージできない児童に対する個別指導。 ・基本的な発問を正しく読み取れるように、日常的な会話も含めて国語とタイアップし語彙力も鍛える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の意味する事を図や具体物を操作し、イメージできるように問題や教材の準備をする。 ・基本的な発問を正しく読み取れる様に意味理解のポイントの指導・類題の用意。練習回数の確保と習熟までの粘り強い反復の継続。日常的に足し算・引き算を活用する場面を増やす。 ・学習意欲に差が出ないように配慮する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・加法減法の計算などの基礎基本が定着が不十分である。 ・計算問題の得点率が高いが、文章を読み取り立式する問題は加法減法ともに正答率が低い。 ・「時刻と時間」「水のかさの単位」「長さ」の学習定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きい。 ・文章問題の間われていることを理解していないため、立式の際、加法減法を間違える。 ・水のかさの単位や長さなど、単位換算を含む計算において、定着を図る指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別にクラスを分け、児童に合った指導を行い、理解を確かめながら授業を行う。 ・授業内で文章問題に多く触れさせ、問題の読解力を上げていくとともに、宿題の文章題の量を増やす。 ・家庭学習や放課後補充教室を活用し、基礎基本の練習をさらに強化する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の習得はおおむねできている。 ・数学的な思考力・判断力・表現力を高める必要がある。 ・「時刻と時間」の学習定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数用語を適切に用いて、解き方や自分の考えを自分の言葉で説明する機会が少ない。 ・時間を量的な見方で捉えることが難しいため、習熟する時間を確保する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の時間を十分に取り、その中で考え方や解き方を言葉で表現する活動を充実する。 ・授業内で適宜少人数で指導し、確実に指導事項を定着させる。 ・日常生活と対応させながら、数直線などを活用して視覚的に捉えることができるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の習得はおおむねできている。 ・作図に苦手意識をもつ児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや解き方を説明する機会が少ない。 ・分度器やコンパス、三角定規を使っている作図の定着が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆算の手順を声に出しながら確かめ、ノートにまとめた自分の考えを、電子黒板に移すなどしてシェアして学び合いに繋げる。 ・家庭学習や放課後補充教室を活用し、器具の扱い方に習熟させる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の習得はおおむねできているが、既習の内容が理解できていない子も少なからずいる。 ・思考力・判断力・表現力を測る問題になると正答率が低くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面積の公式、面積の単位とその相互関係の理解が難しいため、時間を確保し定着を図る必要がある。 ・立式するのが難しい子が少なからずいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後補充教室や個別指導を通して、定着させる。 ・単位や相互関係について、他の面積を表す単位と関連付けて覚えさせる。 ・複数の子の多様な考えを板書させ、より多くの考えを知り、いろいろな解き方に触れさせる。

6年	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の習得はおおむねできている。 ・思考力・判断力・表現力が低い。 ・「分数のわり算」「分数の倍」の正答率が低く、式の意味や単位量あたりの考え方、割合の考え方の理解を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筋道を立てて考え、数学的に表現する課題を丁寧に指導する。 ・「単位量あたりの大きさ」の意味や比べ方を理解し、正しく計算をする必要がある。 ・割合や百分率、基準量、比較量の求め方の理解の定着を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項から自分の考えを表現する活動を大切に指導する。 ・式、図、言葉で表現する方法を丁寧に指導する。 ・式の意味や割合の考え方を繰り返し丁寧に指導する。 ・家庭学習や放課後補充教室を活用し、繰り返し問題を解くことで定着を図る。
----	--	--	--

習熟度別少人数指導の充実に向けて

発展コース「たっぷりコース」、基本コース「しっかりコース」、補充コース「じっくりコース」に分け、習熟度別に自力解決の時間を十分に確保したり、言語活動の充実を図ったりしている。

(4) 理科

理科の重点

- ・新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、従来通りの実験を行うことができないため、演示実験や動画視聴を取り入れ、体験的な活動が充実するよう工夫する。
- ・実験結果の考察を行う際に、理科の見方、考え方を働かせるために、その観点を明確に提示する。さらに、板書や掲示を工夫し、児童に分かりやすく伝わるようにする。
- ・新学習指導要領に沿った取り組み
 - ①プログラミングを体験することを通して、モーターの動きや発光ダイオードの点灯を制御する等の仕組みを体験的に学習する。(6年「電気の利用」)
 - ②身近な自然現象を日常生活と関連させて考えられるようにする。(4・5年「天気の様子、変化」)
 - ③他教科との関連を図り、理解を深める。(3年「太陽と地面の様子」)

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や動物に対して関心が高い。 ・観察の意図や、観察記録から分かることを考えることが苦手である。 ・飼育や栽培など、中には初めての経験するものもあるが、意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の草丈をテープに置き換える調査方法などに代表されるように、比較した際の量的な見方、数的な見方が乏しい。 ・「問題意識を持ち、どのように解決していくか」という問題解決の見通しをもつ力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察の対象や実験の対象を捉える中で、時間や長さなどの量的な見方・回数や個数などの数的な見方が身に付くよう、観察及び実験の見方が深まる発問をする。 ・風やゴム、音、光など3年生の実験上の「考え方」では、比較が主となるが、それ以外にも条件をそろえることや、複数回検証すること、結果の記録、現象を可視化する視点なども含めて指導することで、問題解決の基本的な考え方を身に付けさせていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験に対し、興味関心をもって取り組んでいる。 ・実験や観察について考察する際、具体的に表現できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止の観点から観察や実験の技能を身に付け活用する場の設定が不十分である。 ・仮説、実験、結果を関連付けて考えさせる指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の技能を身に付けさせるために、図や視覚教材を活用し見通しをもたせて取り組ませる。 ・考察をするときの視点を明確にし、児童に提示する。また、理科の用語を意識した考察をさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験に対し、興味関心をもって取り組んでいる。 ・学年内、学級内においても児童の学習能力に差がある。 ・コロナ対策のため、実験は演示のみとなっており、意欲が減退している児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習能力に差がある。 ・学習した内容を生活の中で活かす力が弱い。 ・グループ学習ができない中で意欲を落とすことがないように実験を計画していくことが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールステップで丁寧に指導をしていき、差が縮まるようにしていく。 ・学習内容が生活と結びつくように意識的に実際に活用されていることなどを紹介していく。 ・児童が少しでも実験に参加できるようにやり方を考える。また、演示実験においては児童が興味をもてるように工夫して児童に見せるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を行えない状況の中で目的意識や見通しをもって実験や観察について考えている児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止の観点から、実験や観察などの体験的な活動が行えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料や演示実験によって興味関心を引き出し、問題づくり→仮説→実験計画と進む中で、常に目的を意識させる声かけを行う。 ・プログラミングを体験することを通して、モーターの動きや発光ダイオードの点灯を制御する等の仕組みを体験的に学習する。

(5) 生活科

生活科の重点

- ・ 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自分自身や自分の生活について考え、表現できるようにする。
- ・ 動植物などの自然や身近な人々に関わる機会を設けることで、生活上必要な習慣や技能を身に付ける。
- ・ コロナウイルス感染症予防対策の観点から、直接学校で経験することができない季節の植物を育てる学習や、町探検の学習については、家庭に向けて手紙を出したり、動画を活用したりして、家庭にも協力を仰いで学習を進めることで、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- ・ 進んで自分の意見や感想を友達に伝えることで、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝顔の世話を進んでしており、細かな変化に気付いている様子が見られるが、それ以外の植物について進んで知ろうとする様子が見られる児童は少ない。 ・ 生活経験の差があることから、活動する中で気が付いたことや自分たちの生活を工夫していこうという態度にも差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然に関わる体験が不足しているため、機会を設ける必要がある。 ・ ものの見方の向上及び、活動の中からの気付きについての学び合いの時間が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動植物に触れたり育てたりする体験の機会を多くもつとともに、観察や活動の観点を具体的に指導する。 ・ 学んだことを自分とのかかわりでとらえさせ、自分自身や自分の生活について考えさせる。また、気が付いたことを学級で話し合い互いの考えを交流させ、学び合う機会を設ける。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏野菜の成長を喜び毎日進んで関わり大切に育てる気持ちが感じられる。また、生き物の特徴や動きに関心を示し観察したり触れ合ったりしている。 ・ 下級生や地域の方との交流を直接行うことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苗の植え方や世話の仕方など、一斉指導を行うことができないため、工夫が必要である。 ・ 下級生や地域の方と新たな交流の仕方の検討をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T（実物投影機など）を活用したり、動画を作成して家庭でも観られるようにしたりして指導する。 ・ 感謝の気持ちや憧れにも繋げ目標をもたせる。 ・ 動画を活用し、直接交流ができない内容についても、児童が積極的に考えることができるようにする。

(6) 音楽科

音楽科の重点

- ・新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、ペア学習やグループ活動など、児童同士の学び合いの場面を減らし、個人で考えたり練習したりする時間を十分にとりながら、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解し、表したい音楽表現に必要な知識・技能を身に付ける。
- ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさやおもしろさ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもつ。
- ・音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組む。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<p>(新型コロナウイルス感染予防対策の為、歌唱・鍵盤ハーモニカの演奏、手遊びに着手できない中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽(歌詞・メロディー)に合わせて、各自体を動かす表現活動ができた。 ・リズム打ちに慣れ親しみ、自分たちが並べ直したリズム譜に意欲的に挑戦できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な楽器を幅広く体験させること。(各種打楽器や音階の奏でられる楽器を体験させる準備。) ・魅力的な鑑賞活動の工夫。 ・歌唱活動自粛中、歌詞を読み歌を聴く他、可能な活動を探ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打楽器(カスタネット・タンバリン・鈴・トライアングル等)や木琴・鉄琴などを幅広く体験できるように準備する。 ・映像や挿絵を活用した鑑賞活動や体を動かす事ができる空間を用意する。 ・歌唱指導は通常と同じパターンではできないが、歌詞を覚える、手遊びをする、また、階名を動作化したり手話の練習をしたりと、幅広く活動できるように工夫する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞についての知識を得て、曲や演奏の楽しさやよさを見出し、曲全体を味わって聴くことができる。 ・1割程度の児童が、範奏を聴いたり、リズム譜を見たりして、打楽器を演奏することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気に合わせて体を動かすことが楽しくなり、学習のめあてを忘れてしまう児童がいる。 ・新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、リズム譜を歌うことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、指示を明確にし、曲の構造を把握させるために、場面の切り替わりや楽器の音色をハンドサインで表現させる。 ・視覚的にわかりやすい板書や掲示物を心がけ、手拍子や膝打ちなどを繰り返して打楽器のリズムを学習する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞についての知識を得て、曲や演奏の楽しさやよさを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。 ・2割程度の児童が、範奏を聴いたり、リズム譜を見たりして、打楽器を演奏することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音が高くなったり強くなったりすると、そこで場面が切り替わると感じてしまう児童がいる。 ・新型コロナウイルス感染予防対策の観点から、リズム譜を歌うことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、曲の構造を把握させるために、場面の切り替わりや楽器の音色をハンドサインで表現させる。 ・視覚的にわかりやすい板書や掲示物を心がけ、手拍子や膝打ちなどを繰り返して打楽器のリズムを学習する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞では、全体的に、曲想やその変化、音楽の構造との関わりについて気付き、言葉や身体の動きで表現することが得意である。 ・音楽づくりでは、2割程度の児童が、音盤楽器を使った即興的な表現が苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の豊かな児童と、表現したいことを上手に伝えられない児童の差が開いてきている。 ・曲の全体的な構造を捉えるのが苦手な児童がいる。リズムを聴いて小節ごとのまとまりを感じ取ることなど、感覚的なことについて理解させるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちから出てきた曲想を表す言葉のバリエーションが増えてきたので、それらを掲示物に追加して、苦手な児童へのヒントとして、全体のレベルアップを目指す。 ・音楽づくりに関しては、視覚的にわかりやすい板書や学習カードを作成し、密にならないように配慮しながら個別指導をする。

5年	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞についての知識を習得することには興味をもつが、曲想やその変化、音楽の構造との関わりなどについて言葉や身体の動きで表現することが苦手な児童がいる。 音楽づくりでは、リズムを即興的に表現することについては、楽しみながら活動できている。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲全体を味わって聴くために、旋律、楽器の音色、音の重なりなどの特徴をとらえさせる。 リズムを即興的につくることは得意なので、それを音楽へと構成させる活動へと繋げる指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 手袋や色画用紙などのアイテムを使って、視覚的に曲の構造等に気付かせる指導をする。 音楽づくりの手順を理解させ、完成までの見通しをもたせる。リズムに歌詞を付け、その歌詞に合った旋律を付け、全体の構成を考えるとという手順を明確にする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞についての知識を習得することに興味をもち、曲想やその変化、音楽の構造との関わりについて気付き、言葉や身体の動きで表現することが得意な児童が多い。 音楽づくりでは、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現することに苦手意識をもつ児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲全体を味わって聴くために、旋律、楽器の音色、音の重なりなどの特徴をとらえさせる。 音楽づくりでは、即興的に音を選択できても、曲全体のまとまりについて意識するまでに至らないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞では、音源だけではなく、映像資料を使用し、その音楽だけではなく、文化など周辺の事柄について学習を深める。 視覚的にわかりやすい板書や学習カードを作成し、密にならないように配慮しながら個別指導をする。 音楽づくりの手順を理解させ、完成までの見通しをもたせる。リズムに歌詞を付け、その歌詞に合った旋律を付け、全体の構成を考えるとという手順を明確にする。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- ・対象や事象をとらえる造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解できるようにする。
- ・形や色などの造形的な特徴を元に自分のイメージをもち、創造的に発想や構想をしたり自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ・つくりだす喜びを味わい、主体的に人・もの・こと・場と関わりながら表現および鑑賞の活動ができるようにする。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策の為、友達との会話や共につくる活動を控え、その分材料用具や、形・色などの造形的な視点とじっくりと向き合い、自分の表現を深めていけるようにする。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたり、つくったりする活動を楽しんでいる。 ・何を描くか、何をつくってよいか分からずになかなか取り組めない児童や、工夫できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の扱い方の習得。 ・発想を豊かに、個性的にする力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、個別に支援する。 ・材料とふれあい、全体での話し合いの中からアイデアを出していくことで、思いを形にしていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・図工室の環境と材料、毎回の題材に大きな興味をもち、意欲的に取り組んでいる。 ・用具の扱いに個人差があることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な題材や材料の充実。 ・はさみ、のり、カッターナイフ等、用具の安全で正しい扱い方の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに即した材料の吟味と題材設定を工夫して行う。 ・用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、個別に支援する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら豊かにイメージを広げ取り組んでいる。 ・材料や用具の特性の理解に課題があることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のこぎり、金づち等、用具の安全で正しい扱い方の習得。感覚や行為を通した理解。十分な理解に適した時間設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の扱い方を児童の特性に応じてわかりやすく伝え、時間設定を的確に行い、感覚や行為を通した十分な理解を促す。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら主体的に活動している。 ・新たに扱う用具に積極的に挑戦しているが、まだ理解が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀、電動糸のこぎり etc、新たに扱う用具の安全で正しい扱い方の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かに発想や構想ができる題材を検討し、違いやよさを多く見付け認め合えるように支援する。 ・用具の扱い方を視覚的にわかりやすく伝え、活動時間を十分に確保し、感覚や行為を通した十分な理解を促す。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら集中し、主体的に活動している。 ・自分の発想や構想、表現を深めきれないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞の一体化と活動を通した深い学びの実現。 ・鑑賞を通して自分の見方や感じ方を深めることができる題材設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを設定し、授業の後に振り返り、次のめあてにつなげられるようにする。 ・自他の表現から感じたこと等について言語化する活動を取り入れる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら集中し、主体的に活動している。 ・自分の発想でのびのびと活動できるが、形や色への造形的な視点が弱いことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞の一体化と活動を通した深い学びの実現。 ・形や色などの造形的な特徴についての理解が弱い。 ・自分のめあてを意識した、主体的な活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色などの造形的な特徴に着目するよう促し、言語化するなどして豊かにイメージを広げられるようにすることで、創造性を育む。 ・自分のめあてを設定し、題材毎に振り返り、次のめあてにつなげられるようにする。

(8) 家庭科

家庭科の重点

- ・実践的・体験的な学習活動を通して「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活と環境」について、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・日常生活の中から課題を設定し、解決方法を検討し、計画・実践・評価・改善するという一連の学習過程を重視し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ・家庭生活を大切にしている心情を育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。

【小学校】

現状分析 (成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業に関心、意欲をもって取り組んでいる。 ・裁縫の学習では、友達同士の学び合いができない状況のため、デジタル教材が有効的だったが、理解度に個人差がある。 ・調理実習ができなかったため、実践的・体験的な活動が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能については個人差が見られる。 ・家族の一員としての自覚を促す。 ・実践できる場が家庭にあるといい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で実践できることを具体的に挙げ、実践のヒントを示す。 ・授業で学んだことを生かすことのできる宿題を出す。 ・教え合いができない分、友達の作品等を提示し、認め合う時間をとる。 ・家族の一員としての自覚を促す声かけを続ける。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科の授業に関心、意欲をもって取り組んでいる。 ・裁縫の実習では、基礎的な技能を身に付けているが、指先の巧緻性については個人差がある。 ・授業で学んだことを、家庭でも実践しようとする意欲が高いが、家族の一員としての責任の自覚はまだ弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差が大きいため、実習では進度に差が出てしまう。 ・授業では、よりよく生活するために工夫できることについて多くの考えを出しているが、実践できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料やICT機器の活用によって分かりやすく説明したり児童の特質や発達段階に合わせて作業を単純化したりする。 ・保護者に協力をしてもらい、家庭ですぐに実践できる課題を出す。 ・自分の生活を振り返る場面を増やし、よりよい生活にするために工夫する機会を設ける。

(9) 体育科

体育科の重点

- ・昨年度の課題であった敏捷性と投力（体力テストより）の向上を継続し、体力全般の向上を図る。
- ・各運動領域の特性を味わわせ、運動の楽しさを感じられるとともに、新型コロナウイルス感染予防対策について留意した教材を選定し、意識的・効果的に運動に取り組むことができるように授業をつくる。
- ・互いに関わり合い楽しく運動ができるように指導法や学習活動を工夫していく。
- ・生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現するために、運動が体力の向上に果たす役割や多様な関わり方を学べるような授業を行う。
- ・課題を解決する振り返りの時間を持ち、コロナ対策をふまえ動画を用いるなど、自己評価を主として、資料と児童との間で対話が生まれるようにする。対話の中で、自己の思考を広げ深めていけるようにしていく。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びや集団遊びを好む児童が多い。 ・自粛期間の影響からか、走り続けたり、10分程度の休み時間に遊び続けたりする体力に乏しい児童が多い。 ・一人一人の運動経験の有無による技能の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な運動感覚を身に付けていない児童が多数いる。 ・80%の児童が遊具遊びを楽しむための技能が身に付いていない。 ・敏捷性及び投力に関わる運動遊びの経験が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策に留意して、跳ぶ、回転する遊具を使った運動などの様々な運動遊びを単元の前半や授業の導入に取り入れたり、家庭と連携して様々な体の動きを練習する機会を継続して設定したりすることで、基礎的な運動感覚を身に付けられるようにする。 ・授業の準備運動の中に敏捷性や投力を高める運動遊びを取り入れる。 ・児童の運動量を確保した授業を行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の運動時間が少ない。（休み時間は、鬼遊びが多く、偏っている。放課後遊びが少ない。） ・全国平均と比べて、男子は敏捷性、女子は敏捷性と投力が課題。 ・1人1人の運動経験の有無による、技能の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びは同じ遊びに偏りがちである。 ・敏捷性や投力を高めるための活動が少ない。 ・基礎的な体感覚、運動感覚の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びタイムや体育の学習、休み時間などに柔軟体操や体感トレーニングなどのいろいろな遊びを提示し、学年・学級全員で体を動かす楽しさを感じられるような運動遊びに取り組ませる。 ・ゲームやボール投げ遊びの授業を充実させ、投力を高める活動を取り入れる。 ・体を切り返す運動を取り入れる。 ・運動量をしっかりと確保した授業作りをする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止策の影響で、外遊びの時間が短く、運動量が少なくなり体力が低下している。 ・感染防止を意識する力が乏しい。 ・男女とも投力、敏捷性に課題がある。（令和元年度体力テストより） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かす楽しさを感じられるような運動を質と量ともに増やす必要がある。 ・ソーシャルディスタンスへの意識が低い。 ・持久力や投力、敏捷性を高める運動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けさせる技能を効果的に定着させることができる教材を選定し、指導内容を明確にして授業実践する。 ・距離を保って対話をする方法を指導し、毎時間取り組ませる。 ・45分間の中の運動量を増やし、ボールを遠くに投げる運動、体の位置や動く方向をすばやく変える運動を計画的に取り入れる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に外遊びを好む児童は多くいるが、接触する遊びができないことから、多様な動きが見られず、全体的に運動量が少ない。 ・休校が長引いたためか、敏捷性と持久性に欠ける児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策について留意した教材を選定し、継続的に、様々な運動に取り組むことができるようにする。 ・敏捷性と持久性を高める運動を取り入れた指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間や授業の始め、朝の学年遊びの時間に、ソーシャルディスタンスを保ったままできる多様な運動遊びを紹介していく。 ・外部の刺激に対して素早く反応する運動や、動作をできるだけ早く切り換えて行う運動量を確保する。また、無理なく運動量を増やしていけるようにする。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策のため、遊びが制限されており、体力が低下している。 ・男女共に、持久力・敏捷性・投力・筋力の数値が低い。(令和元年度体力テストより)
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止のため外及び体育館での活動が制限されているため運動量、運動の幅は大幅に減ってきている。 ・自粛期間の影響から持久力が昨年より下がってきている。

<ul style="list-style-type: none"> ・体力の低下がみられる。 ・意欲面や技能面でつまづいている児童への効果的な支援方法。 ・持久力、敏捷性、投力の数値が低い。
<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大防止のため、できる活動が限られている中で、自ら取り組みたいと感じられる教材や活動の工夫をしていく。 ・体力の低下がみられる。

<ul style="list-style-type: none"> ・身体接触を伴わない運動や遊びを紹介していく。 ・スモールステップで指導し、技能の定着や達成感を味わわせる。 ・長く走る運動や、瞬発力を高める運動、遠くに投げる運動を効果的に組み合わせさせて授業を行っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策について留意した教材を選定し、意識的・効果的に運動に取り組むことができるように授業をつくる。 ・振り返りの時間を設け、対話的な活動の中で、その運動の特性や楽しさに気付くことができるようにする。 ・持久走など走る運動を意識的に取り入れる。

(10) 外国語活動・外国語

外国語活動・外国語の重点

- ・コロナウイルス感染拡大防止の観点から、児童同士のやり取りや発表などの活動を減らし、代わりに教員やALTとのやりとりの中で、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能（外国語活動：コミュニケーションを図る素地）の育成を図る。

〈外国語活動〉

- ・言語活動を通して、主体的なコミュニケーションを図る楽しさに気付かせ、英語の音声やリズムに慣れ親しませる。
- ・映像資料などを通して、日本の文化と異文化を比較することで、多様な考え方があることに気付かせる。

〈外国語〉

- ・簡単な語句や基本的な表現について語順を意識して書けるようにするために、音声で十分に慣れ親しませる。
- ・デジタル教材の活用やALTとのやり取りを通して、言語の背景にある文化に対する理解を深める。

【小学校】

現状分析（成果と課題）		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を使ったゲームや英語の歌を楽しみながら活動している。 ・英語が苦手な児童が活動に消極的になり、全員への習熟に結びつかないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心を引き出す活動のさせ方が難しい。 ・児童全員が自信をもって活動に参加できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味関心を引き出す活動をこれからも工夫する。 ・自信をもって表現できるように、単語や表現を繰り返し練習させる。 ・一人一人が発言し、授業に参加できるように、学習形態を工夫する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら発音しているが、マスク越しであるため正しい発音や口の形が理解できていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの発音を聞き取り評価することが難しい。また、互いに聞き合う時間を確保できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTに手本を見せていただく際には、マスクを外しフェイスシールドを活用することで、正しい発音や口の形が理解できるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語への意欲は高く、楽しんで活動することができている。 ・塾等で習っている児童も多くおり、学習内容も概ね理解している。 ・語彙が不足しているため、学習に参加しづらい児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙が不足している児童がいる。 ・センテンスになると、練習をしても発声することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワードピクショナリーを用い、絵と単語がつながるようにする。 ・変化をさせながら継続して指導を続けて語彙の定着をはかる。 ・チャンツを取り入れ、リズムで長めのセンテンスを覚えられるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい発音をするための口の形が理解できていない児童が多い。 ・自分の伝えたいことを表現するための語彙力が不足している。 ・実物と発音がつながってきたものの、綴りと発音がつなげられない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスク越しであるため、口の形が読み取れず、児童同士でも確認がとれない ・和英辞書がクラスに数冊しかなかったため、様々な表現を調べることができなかった。 ・書く機会が少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像資料等を活用することで、口の形を理解しながら実践できるようにする。 ・Picture Dictionaryを活用して、様々な表現に触れる機会を増やす。 ・副教材の活用により書く機会を増やし、発音しながら書いていくなどの方法から、発音と綴りの結びつけを図る